

研究結果

研究期間中は主に、明の『剪灯新話』と朝鮮の『金鰲新話』、日本の『伽婢子』、ベトナムの『伝奇漫録』における文人の問題を巡って研究した。

まず、中国文化における「上梁文」の意味から、『金鰲新話』の「龍宮赴宴録」の翻案と考えられている『伽婢子』の「竜宮の上棟」が、『剪灯新話』「水宮慶会録」の主題を明確に継承していることを明らかにした。

重要な建築物の「上梁文」を作成することは昔から中国文人の誉れであり、出世の証であった。ところが、『剪灯新話』の作者瞿佑の時代、江南才子として名高い高啓が蘇州知府落成の上梁文を書いたため、南京の市で腰斬されたような惨事が起こった。文人の出世が絶望的になっていた朱元璋政権の初期にあたって、一介の文士が龍宮で厚遇されるという作品の主題に、当然現実社会に対する風刺が籠められているのである。ところが、『金鰲新話』の「龍宮赴宴録」では龍王が別殿ではなく、娘の結婚のための建物の「上梁文」の作成を、前朝の文章巨公に依頼している。ここには、すでに中国文化における「上梁文」の意味がなくなっている。その代わり、日本に文章生が「上梁文」を作成するという事例が見出せないにもかかわらず、篇名を「竜宮の上棟」と、「水宮慶会録」の主題をタイトルにし、しかも一作を巻頭に置いたところに、浅井了意の「水宮慶会録」に対する深い共鳴が読み取れる。一方、ベトナムの『伝奇漫録』には文人題材の翻案作がない代わりに、恋愛物語の怪異性が作者の民族感情を語るための装置となっていたことを究明し、三国三様の文人の処世観を明らかにした。

ただ、『金鰲新話』から見えるものは民族的なのか、作者個人的なものなのかはまだ判断できない。韓国の資料調査で入手した多くの朝鮮漢文を解読しつつ、『金鰲新話』の朝鮮漢文における位置づけを中心に、向こう二三年続けてこのテーマに取り組んでいくつもりである。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等) :

1. 東アジアにおける『剪灯新話』の受容—「水宮慶会録」「龍宮赴宴録」「竜宮の上棟」における竜宮の意味・2007年10月20日・“二十一世紀東北亜日本研究”北京外国語大学
2. 東アジアにおける『剪灯新話』の受容—『伝奇漫録』における恋愛物語の特質・2007年11月2日・“日本文学研究”韓国外国語大学校

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等) :

1. 東アジアにおける『剪灯新話』の受容——『伝奇漫録』における恋愛物語の特質、張龍妹・『アジア遊学』114号・2008年9月30日発行・勉誠出版
2. 東アジアにおける『剪灯新話』の受容——龍宮の意味、張龍妹・二十一世紀東北亜日本研究論文集・北京日本学研究中心編・学苑出版社・2009. 2

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等) :